

すこやかこまつ21

(第2次)

最終評価報告

(令和5年度)

はじめよう あなたが主役のけんこう生活



目 次

I	「すこやかこまつ21（第2次）」の概要について	
1	計画の趣旨	2
2	計画期間	2
3	全体目標と計画の柱	2
4	取組分野と指標項目	2
II	「すこやかこまつ21（第2次）」の最終評価の概要について	
1	評価の趣旨	2
2	最終評価の方法	3
III	全体目標	4
IV	分野別目標達成状況	
1	がん	5
2	循環器疾患	7
3	糖尿病	9
4	栄養・食生活	10
5	身体活動・運動	12
6	喫煙	13
7	歯・口腔の健康	14
8	高齢者の健康	16
9	こころの健康	18
10	健康を支え、守るための社会環境の維持・整備	19

I 「すこやかこまつ21（第2次）」の概要について

1 計画の趣旨

すこやかこまつ21の第1次計画の取り組みに関する最終評価を平成24年度に実施し、小松市の健康課題（①生活習慣病の増加②高齢者人口の増加③要介護状態の人の増加④こころの健康を害する人の増加⑤社会保障費の増加）や国が示した健康日本21（第2次）に取り上げられている健康課題等を踏まえ、「すこやかこまつ21（第2次）」を平成25年3月に策定しました。

2 計画期間

計画期間は平成25年度（2013年度）～令和5年度（2023年度）の11年間。

※第2次策定時は令和4年度までの10年計画の予定でしたが、国の健康増進計画「健康日本21（第二次）」が医療費適正化計画、医療計画等の期間を一致させるため、1年延長され令和5年度までとなったことから、「すこやかこまつ21（第2次）」についても国の計画を反映したものとするため、令和5年度まで計画期間を延長することとなりました。

3 全体目標と計画の柱

(1)全体目標

計画により達成を目指す全体目標は、「健康で長生きのまちこまつを目指して」です。

(2)計画の柱

全体目標の実現を目指すための骨子となる取り組みとして、次の3点を推進します。

- ①生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
- ②社会生活を営むために必要な機能の維持・向上
- ③健康を支え、守るための社会環境の整備

4 取組分野と指標項目

計画では、全体目標の達成に必要な取組分野として、「がん」、「循環器疾患」、「糖尿病」、「栄養・食生活」、「身体活動・運動」、「喫煙」、「歯・口腔の健康」、「高齢者の健康」、「こころの健康」、「健康を支え、守るための社会環境の整備」を掲げ、3ページのとおり指標項目を定めています。

II 「すこやかこまつ21（第2次）」の最終評価の概要について

1 評価の趣旨

平成30年3月に、平成25年度（2013年度）～令和5年度（2023年度）の中間時点での各目標項目の達成状況やこれまでの取り組みを評価する中間評価をまとめました。その結果を踏まえて、後期でさらに重点的に取り組む項目や課題を整理しました。

今回は、令和6年度からの次期計画に向け、第2次の取り組みに関する最終評価として実施しました。

2 最終評価の方法

最終評価の実施に当たっては、各目標項目の達成状況を把握するため、計画策定時の値、中間評価時の値、令和元年（新型コロナウイルス感染症流行前：詳細は（2）に記載）時の値について下記の項目について評価しました。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 目標に対する実績値の評価
（各領域における目標項目の実績値に対しての評価）2. 取り組み状況を踏まえた評価（考察）3. 次期すこやかこまつ21計画に向けての課題4. 今後の方向性 |
|---|

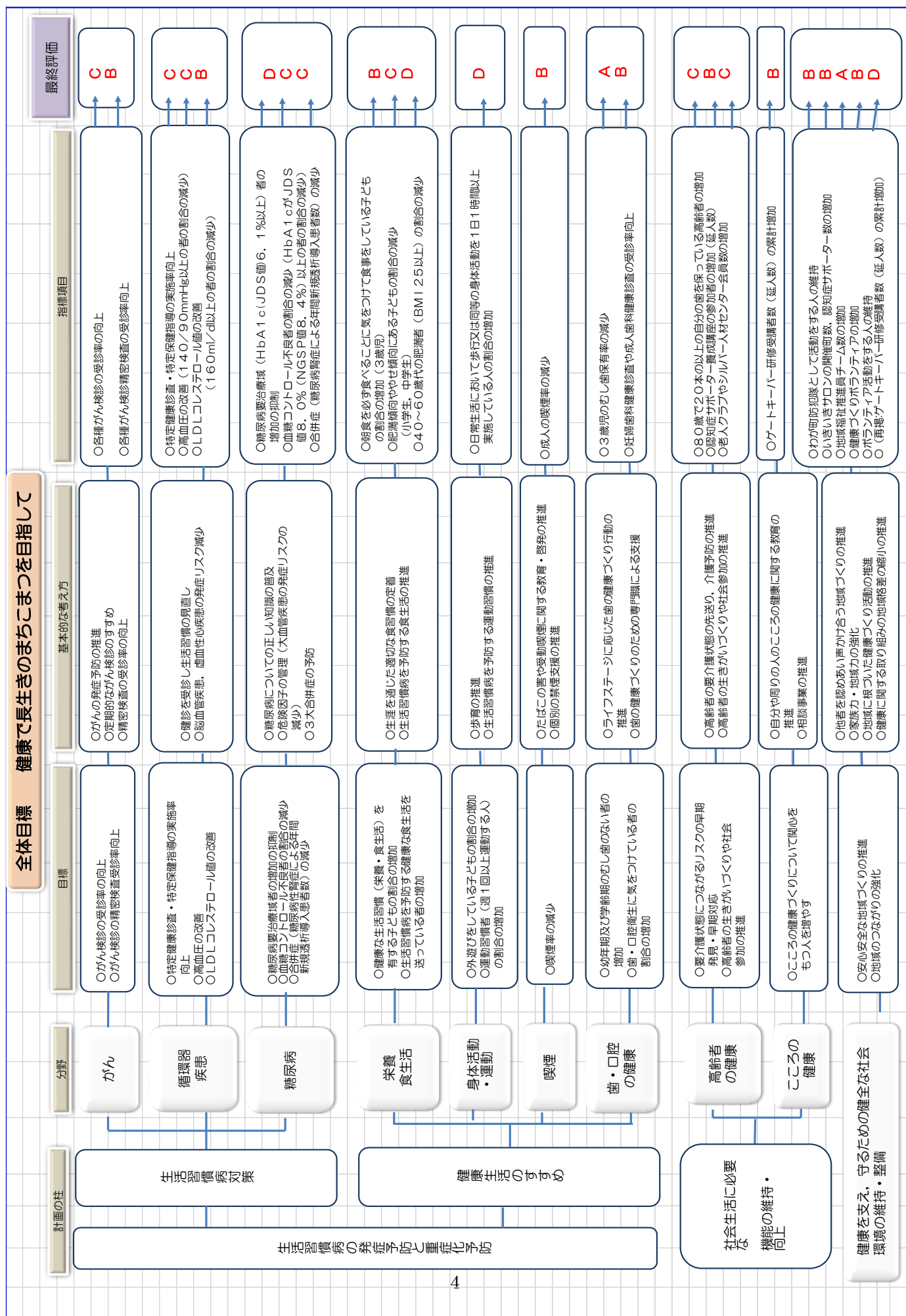
（1）目標達成状況の区分について

- | |
|--|
| <p>A・・・最終目標値を達成しているもの
B・・・最終目標値に達していないが、策定時（※）より改善傾向
C・・・改善していない（横ばい）
D・・・策定時（※）より悪化
※中間評価時に上方修正した項目は、中間評価時の値と比較する</p> |
|--|

（2）新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて、国の計画「健康日本21（第2次）」計画の最終評価における目標に対する実績値の評価が、原則新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年（2019年）度までのデータを用いて行っていることから、すこやかこまつ21（第2次）の最終評価についても、令和元年度までのデータを用いることとした。

なお、その後の直近データ（令和4年度または令和5年度）も把握し、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察も行うこととしました。



Ⅲ 分野別目標達成状況について

最終目標値については、計画策定時に設定した値または、中間評価時（平成 29 年度）に最終目標の変更を項目（※）となっています。

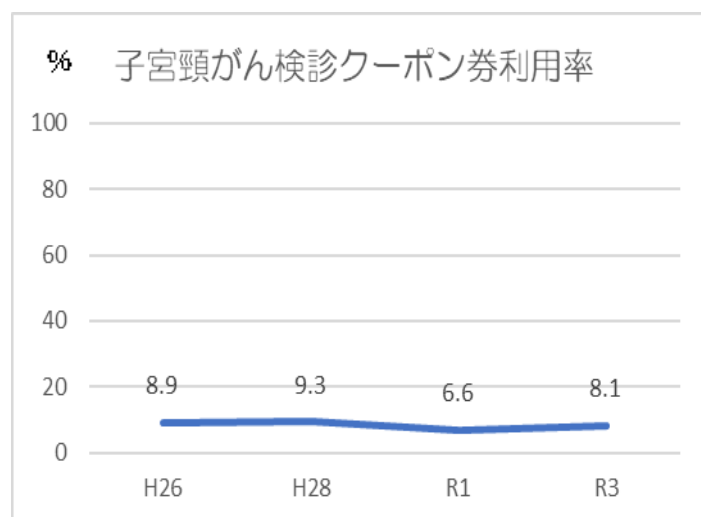
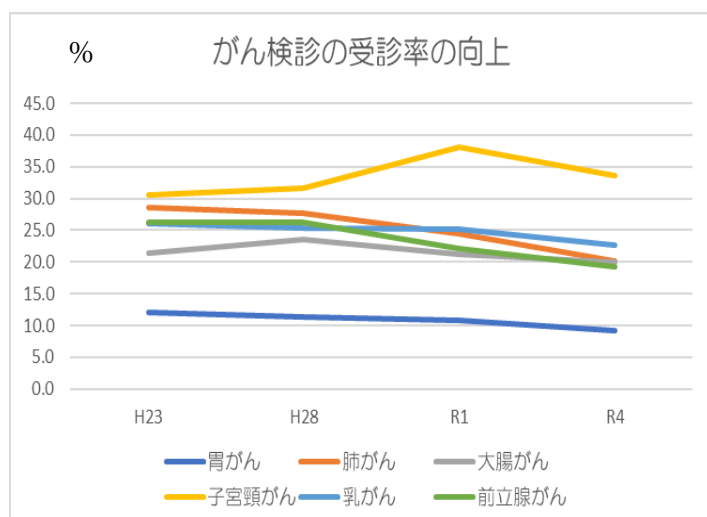
1 がん

(1)がん検診の受診率の向上

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
胃がん検診受診率	12.0%	11.3%	10.8%	9.2%	50.0% ※	D
肺がん検診受診率	28.6%	27.6%	24.4%	20.1%	50.0% ※	D
大腸がん検診受診率	21.4%	23.6%	21.3%	19.9%	50.0% ※	D
子宮頸がん検診受診率	30.5%	31.6%	38.1%	33.6%	50.0% ※	B
乳がん検診受診率	26.1%	25.4%	25.2%	22.7%	50.0% ※	C
前立腺がん検診受診率	26.3%	26.3%	22.1%	19.3%	50.0% ※	D

（資料：小松市がん検診結果）

※準拠する計画（国：第 3 期がん対策推進基本計画）の改定が行われたため、最終目標値を変更



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- ・がん検診の受診率の目標は、すこやかこまつ 21（第 2 次）の目標設定時には、「50%（胃がん、肺がん、大腸がんは当面 40%（平成 28 年）」とされていたが、すこやかこまつ 21（第 2 次）中間評価の時点では、第 3 期がん対策推進基本計画に合わせて「50%（令和 4 年）」へ変更された（※）。
- ・子宮頸がん検診を除いて、計画策定時（平成 23 年度）より悪化している。子宮頸がん検診も、策定時より改善しているものの、最終目標値には達していない。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- ・感染症の流行により、個人では受診控えがある様子だった。また、検診実施機関側としては、密を避けるために予約制を取り入れた検診もあった他、実施期間を一時中断する検診などもあり、受けにくい体制になったことも受診率が低下した要因と考えられる。

【今後の課題】

- ・対象者が検診を受けやすくなるよう、受診手続き（申し込み）の簡便化や効果的な受診勧奨を行う等、工夫していくことが必要である。
- ・子宮頸がんは、罹患率が20歳代で上昇するが、中でも若年層の受診率は低いため、この年齢層での子宮頸がん検診の重要性の啓発を行っていく必要がある。

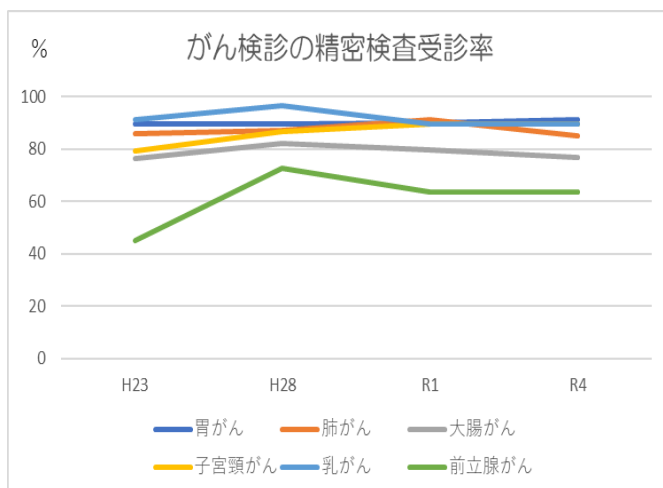
【今後の方向性】

- ・子宮頸がん検診のクーポン券を利用した受診率は、開始当初と比較し、改善傾向にあるものの、低く推移しており、効果的な周知の実施や、住所地と居住地が異なる等の理由で、本人の手元に届かずに利用の機会を逃すといった課題に対する検討が必要である。また、子宮頸がんワクチンは、平成25年6月より積極的勧奨を差し控えていたが、令和3年11月より積極的勧奨を再開した。子宮頸がんワクチンの接種及び子宮頸がん検診の定期受診を周知していくことが必要である。
- ・大腸がんの医療機関検診については、特定健診や長寿健診受診者への周知や定期受診者への勧奨等医療機関の協力なども得ながら受診勧奨の工夫をしていきたい。

(2) がん検診の精密検査受診率の向上

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
胃がん検診精密検査 受診率の向上	89.7%	89.5%	90.0%	91.1%	100%に 近づける	B
肺がん検診精密検査 受診率の向上	86.0%	87.2%	91.3%	85.1%		B
大腸がん検診精密検査 受診率の向上	76.3%	82.2%	79.6%	76.9%		B
子宮頸がん検診精密検査 受診率の向上	79.5%	86.9%	89.5%	89.5%		B
乳がん検診精密検査 受診率の向上	91.4%	96.6%	89.7%	89.7%		D
前立腺がん検診精密検査 受診率の向上	45.1%	72.9%	63.8%	63.8%		B

（資料：小松市がん検診結果）



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- ・胃がん検診の精密検査受診率は、策定時より年々改善傾向が見られるが、最終目標値には達しなかった。
- ・肺がん・大腸がん・子宮頸がん・前立腺がん検診は、策定時より改善傾向が見られていたが、近年悪化傾向にあり、最終目標値には達しなかった。
- ・乳がん検診は、策定時から改善傾向にあったが、H29 年より悪化傾向が続いており、策定時（H23）より悪化している。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- ・感染の流行により、毎年訪問にて受診勧奨を行っていたが、コロナが流行している間は、一時訪問を控え、勧奨手紙の送付などに変えて行ったことも、受診行動につながりにくかった要因の一つと考えられる。

【今後の課題】

- ・がん検診の受診者に、精密検査受診の必要性を理解してもらい受診行動につなげることが必要である。

【今後の方向性】

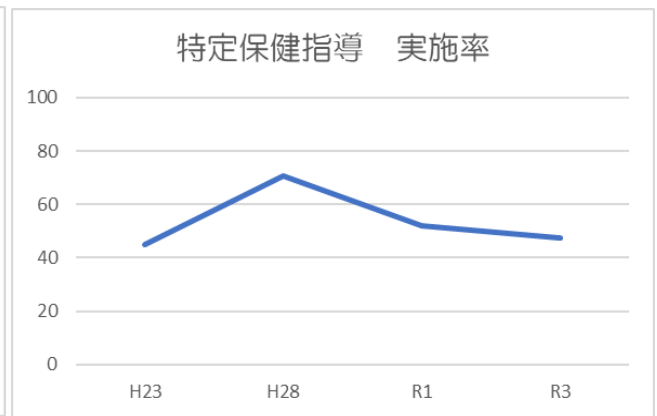
- ・精密検査未受診者や精密検査未把握者には受診勧奨や受診確認を行い、未受診者には受診の必要性を説明するため、手紙や訪問等で対応しているが、依然として精密検査の受診が低いがん検診もあるため、引き続き受診の必要性を伝えながら勧奨を行っていく必要がある。
- ・医療機関検診については、受診結果送付時などに医療機関側からの精検受診勧奨を積極的に実施するなど方法を検討していく。

2 循環器疾患

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R3)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
特定健康診査受診率の向上	45.1%	49.6%	53.3%	48.4%	58.0% ※	B
特定保健指導実施率の向上	44.9%	70.6%	52.1%	47.3%	74.0% ※	D
目標項目	策定時 (H22)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R3)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
高血圧の改善 (140/90mmHg 以上の者の 割合の減少)	24.4%	23.2%	24.9%	29.4%	20.0%	C
LDL コレステロール値の改善 (160mg/dl 以上の者の 割合の減少)	9.00%	7.99%	8.40%	7.60%	7.70%	B

（資料：小松市国民健康保険特定健康診査，小松市国民健康保険特定保健指導 法定報告より算出）

※策定時は、国の「医療費適正化計画」及び市の「小松市国民健康保険特定健康診査等の実施に関する計画」に合わせて設定予定であったため、最終目標値は未設定であったものをいずれも H30 年度を始期とする第三期計画に合わせて設定



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- 特定健診については、タイプ別のコメントを入れた受診勧奨ハガキの発送など、積極的に勧奨を行い、受診率は向上した。
- 保健指導では、事前の予約などを行わず、訪問にスタッフが積極的に回ったことにより、実施率も中間評価までは、増加したが、R1 年度の冬から一時訪問を控えることとなり、R1 の最終値は減少したと考えられる。
- 高血圧については横ばい、LDL コレステロールについては改善傾向である。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- 感染症の蔓延により訪問を控えたり、感染症の警戒により保健指導への参加を拒んだ方がいたりしたため、実施率が令和 2 年度・3 年度は 50%を切った。
- 高血圧者の割合について、感染症の流行後、割合が大きくなっている。外出自粛による運動不足や食生活の変化等で高血圧に至る要因をもつ者が増加していることが考えられる。

【今後の課題】

- 生活習慣病の重症化予防のためにも、まずは対象者と会い、放置することの危険性やどの生活習慣を改善するとリスクが減らせるかを伝えることにより、対象者自身が行動できるような支援を継続し強化する必要がある。
- 高血圧は血管を痛め、持続すると脳血管疾患に至るリスク因子である。正常に血圧を管理し、脳・心臓・腎臓を守ることが重要である。

【今後の方向性】

- コロナで受診を控えていた方についても、健診の必要性を十分伝えながら、個別通知や町内の放送、チラシの回覧等様々な手段を取り入れながら積極的に受診を呼びかけていく。
- 特定健康診査等実施計画作成の手引き（第 4 版）（2024 年度～）より、積極的支援の評価についてアウトカム評価が導入される。特定保健指導の実施率だけでなく、結果が出るような指導が重要になってくるため、スタッフの力量も上げていけるよう課内研修も引き続き行っていく。
- 健診受診者の高血圧者に対して、血圧管理（家庭血圧測定）・減塩・運動等、正常な血圧コントロールに向けた保健指導の実施を継続していく。

※指標は第 3 期データヘルス計画で掲げる目標（健診受診者の高血圧者の割合 及び 健診受診者の脂質異常者の割合）と整合性を図りたい。

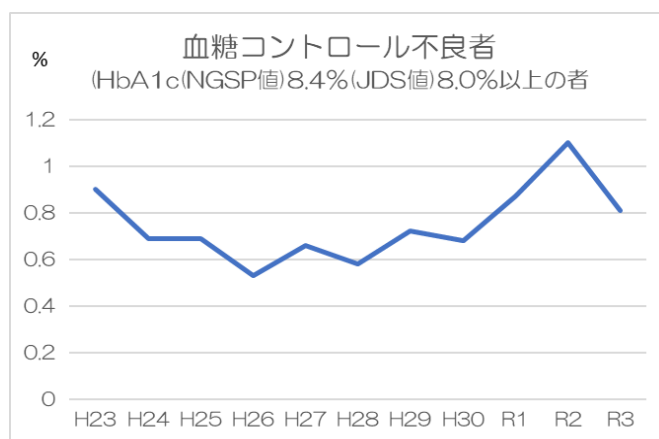
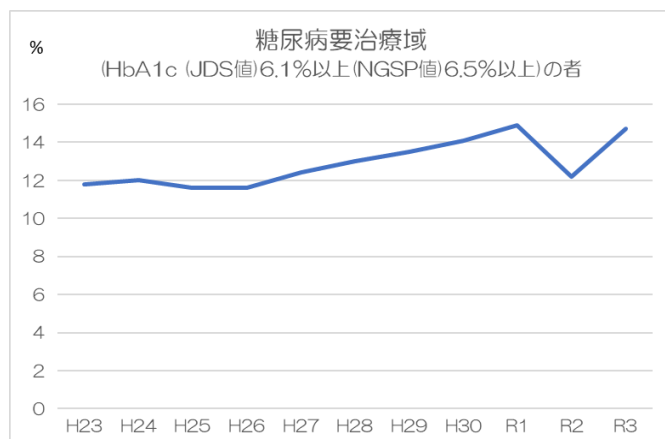
3 糖尿病

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R3)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
糖尿病要治療域(HbA1c(NGSP 値) 6.5% (JDS 値 6.1%) 以上の者の 増加の抑制	11.8%	13.0%	14.9%	14.7%	現状より増 加させない	D
目標項目	策定時 (H22)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R3)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
血糖コントロール不良者の割合減少 (HbA1c(NGSP 値)8.4%(JDS 値 8.0%)以上の者の割合の減少)	0.90%	0.58%	0.87%	0.81%	0.80%	C

(資料：小松市国民健康保険特定健康診査 法定報告より算出)

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
合併症（糖尿病性腎症による年間新 規透析導入患者数）の減少	13 人	11 人	12 人	15 人	10 人	C

(資料：小松市ふれあい福祉課 更正医療受給者データ)



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- ・HbA1c6.5%以上の者は、年々増加している。また、コントロール不良者の割合や合併症の人数は横ばいである。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- ・感染症の流行前後で割合に大きな変化はないものの、感染症への不安から運動・活動量の減少により筋肉量の減少・内蔵脂肪の蓄積など、血糖値を上げる要因がある者が増加していることが考えられる。

【今後の課題】

- ・高血糖は石川県・本市ともに健康課題である。特に優先度が高い HbA1c8.0%以上の者の割合は経年的にも横ばいであり、糖尿病性腎症をはじめとする合併症に至らないよう、重症化予防対策として HbA1c 高値者への保健指導が重要である。
- ・透析が導入されると、長期に高額な医療を要することや日常生活に制限を余儀なくされる等、生活への負担が大きい。糖尿病性腎症による新規透析の予防を目標とし、糖尿病重症化予防対策を一層進めていくことが重要である。

【今後の方向性】

- 糖尿病未治療者や糖尿病治療中の血糖コントロール不良者、治療中断者等に対する支援を実施する。対象者の実態を整理し、一人ひとりの背景（治療に結びつかない理由、生活状況等）を捉えたうえで、対象者本人が身体の状態を理解し、自身で行動変容できる保健指導を実施していく。
※指標は第3期データヘルス計画で掲げる目標（健診受診者の血糖異常者の割合・高血糖で未治療者の割合）と整合性を図りたい。

4 栄養・食生活

(1) 健康な生活習慣（栄養・食生活）を有する子どもの割合の増加

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
朝食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子ども（3歳児）の割合の増加	84.9%	89.5%	89.5%	91.0%	90.0%	B

（資料：小松市3歳児健康診査結果）

【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- 計画策定時から H28 年度までは増加しているが、H28 年度から R1 年度は横ばいで推移した。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- R1 年度以降も増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響はなかったと考えられる。

【今後の課題】

- 朝食は生活リズムを整えることやエネルギーの補給に必要であり、今後も朝食を食べる子の割合の維持・増加が重要である。

【今後の方向性】

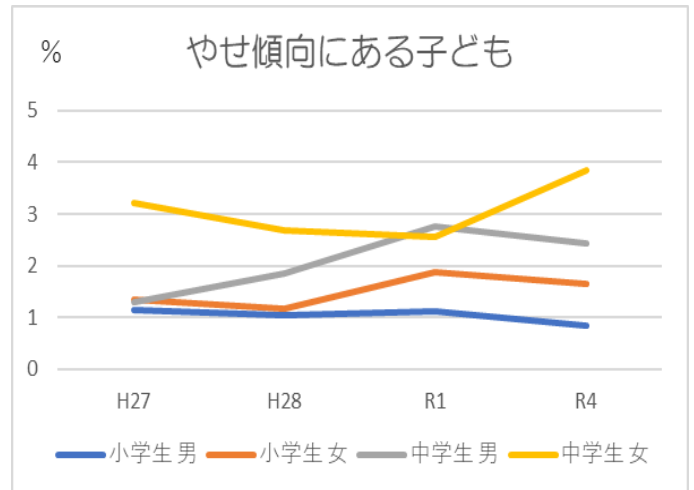
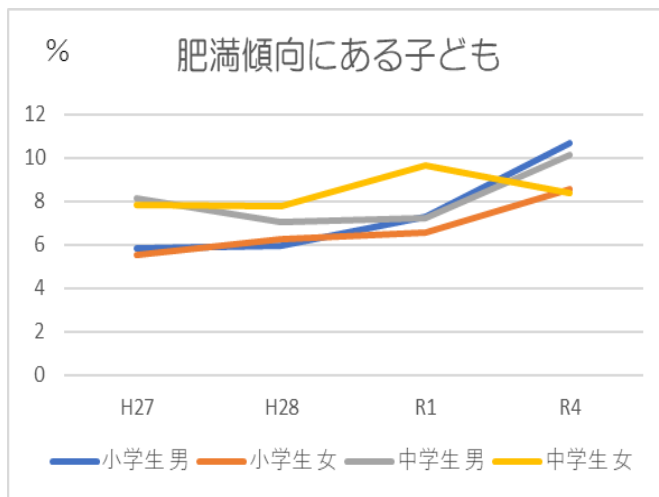
- 健診や教室等を通して、朝食を摂るように啓発を継続していく。

(2) 生活習慣病を予防する健康な食生活を送っている者の増加

目標項目			策定時 (H22)	H27	中間評価 (H28)	最終評価 (R1)	直近値 (R4)	最終目標 (R5)	目標達成 状況
肥満傾向にある子どもの割合の減少（肥満度）	小学生	男	3.72%	5.86%	5.95%	7.27%	10.69%	0%に近づける	D
		女	3.34%	5.51%	6.27%	6.54%	8.54%		D
	中学生	男	2.68%	8.12%	7.07%	7.22%	10.16%		B
		女	3.19%	7.85%	7.77%	9.66%	8.39%		D
やせ傾向にある子どもの割合の減少（肥満度）	小学生	男	0.38%	1.15%	1.05%	1.13%	0.83%		B
		女	0.75%	1.34%	1.71%	1.87%	1.66%		C
	中学生	男	2.40%	1.30%	1.86%	2.75%	2.42%		D
		女	0.85%	3.21%	2.69%	2.57%	3.85%		B

※性別の傾向をみるため、H26より男女別で集計、客観的な指標とするため、H27より肥満度で集計し、ベースラインとする

（資料：小松市学校保健統計）



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- ・策定時の指数はローレル指数で評価していたが、H27年より指数が肥満度に変更されて、数値が極端に変化（増加）している。しかし、評価の指数を変更したH27年から比較しても肥満傾向にある子どもは増加している。
- ・やせの傾向にある子どもはH27年からは増加していない部分もある。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- ・新型コロナウイルス感染症後の数値では、小学生・中学生ともに男子の肥満度が顕著に増加している。外出の自粛等で自宅にいる時間が増えたことで、生活のリズムが変わったことにより運動量が低下したり、食生活に変更があったのではないかと考えられる。

【今後の課題】

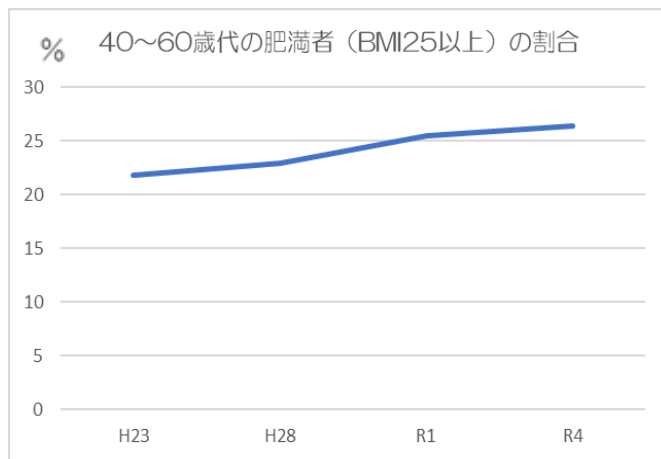
- ・子どもの肥満については、将来の大人の肥満や生活習慣病に移行する可能性が示されている上、子供の頃からの健康的な発育や生活習慣の形成をしていくための基礎づくりとして、食生活の改善及び身体活動の推進は不可欠である。そのため、児童や生徒のやせや肥満に対する健康課題への対応のほか、地域や家庭、関係機関との連携による取組の充実が求められる。

【今後の方向性】

- ・給食の提供によるバランスのよい食事の周知や、給食だよりや個別指導を通して、健康な食生活について児童生徒や保護者に継続的に伝えていくことが重要である。
- ・現在の指数に合わせた目標値を設定し、引き続き肥満傾向ややせ傾向の子どもたちの割合が減少するように努める。

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R3)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
40～60 歳代の肥満者(BMI25以上)割合の減少	21.8%	22.94%	25.52%	26.40%	19.0%	D

（資料：小松市国民健康保険特定健康診査 法定報告より算出）



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- 肥満者の割合の増加は年々増加傾向にある。その背景には、コンビニや外食産業の普及により、食べ物が手に入りやすくなったことや糖質に偏った食事になったことが考えられる。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- 新型コロナウイルス感染症の蔓延により、外出することを控え家にいる時間が増えたことにより、活動量が減少し、肥満の割合が増えたと考えられる。

【今後の課題】

- 食習慣の偏りにより起こりうる肥満は、糖尿病や高血圧症、心血管疾患などの生活習慣病の発症に繋がるため、肥満者の割合を減らすためにも、保健指導や健康相談の実施・周知が必要になる。

【今後の方向性】

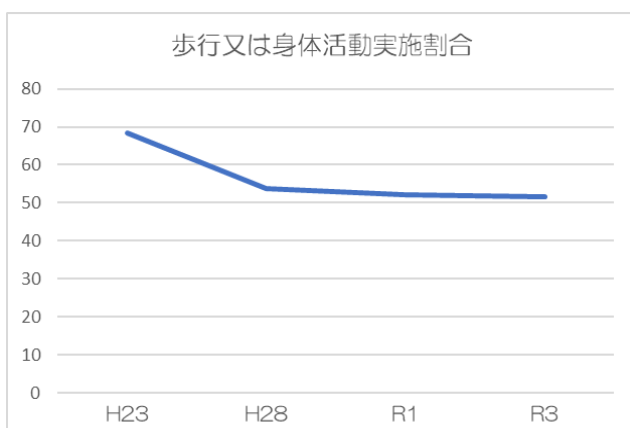
- 健康相談の周知や、保健指導の実施に一層努めていく。

5 身体活動・運動

運動習慣者（週1回以上運動する人）の割合の増加

目標項目	策定時 (H22)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R3)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合の増加	68.3%	53.9%	52.2%	51.6%	72.0%	D

（資料：小松市国民健康保険特定健康診査 法定報告より算出）



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- ・策定時から悪化しており、目標値を達成していない。

職場や家庭における機械化・自動化の進展や様々なサービスの代行等の生活環境の変化が労働、家庭、移動時における歩行や身体活動の機会を減少させたことが考えられる。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- ・新型コロナウイルス感染症の流行・外出制限をきっかけにテレワークの普及や人とのかかわりの減少により外出の機会が減少することで歩行等の身体活動に影響を与えた可能性がある。

【今後の課題】

- ・生活習慣病の発症・重症化の予防のために、身体活動や運動習慣の向上の取組みとして、個人の健康状態や日常生活に応じた運動習慣を形成する取組みが重要である。

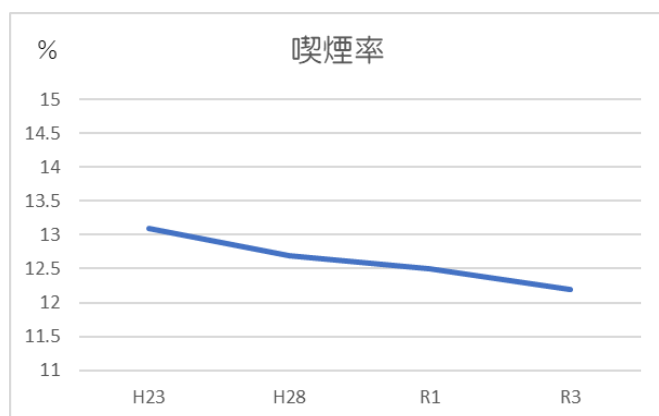
【今後の方向性】

- ・生活の中における身体活動の意義や重要性を啓発し、日常生活の様々な場面で歩数や運動習慣を増やす取組みを実施していく。

6 喫煙

目標項目	策定時 (H22)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R3)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
成人喫煙率の減少	13.1%	12.7%	12.5%	12.2%	10.0%	B

（資料：小松市国民健康保険特定健康診査 法定報告）



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- ・最終目標値には達していないが改善傾向にある。

平成 30 年から段階的にたばこ税率の引上げ及び加熱式たばこの課税方式の見直しが行われたことや、注意文言の表示面積を拡大する規制が全面適用されたこと、改正健康増進法の施行により、喫煙率の減少につながったと考えられる。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- ・喫煙は新型コロナウイルス感染症の重症化に関わることが広く知られたが、コロナ禍における行動・

外出制限によるストレスが喫煙に繋がることも考えられる。また、コロナ禍での外出制限で自宅で過ごす時間が増えたことにより受動喫煙の機会も増加するなどの影響があるのではないかと推測される。

【今後の課題】

- 小松市では、肺がんの罹患率が高く、たばこは肺がんのリスク因子となっている。また、喫煙している本人だけでなく、周りの人にも健康被害を引き起こすことが知られている。妊婦の喫煙者や妊婦の家族の喫煙者もいる。

【今後の方向性】

- 小松市では、平成 23 年以降、妊娠期から幼児期にかけて禁煙チラシによる啓発を行っている。また平成 27 年より禁煙外来治療を終えた方を対象に治療費の一部を助成している。より多くの方に喫煙による害や禁煙についての情報提供を行っていく必要がある。
- 今後も、健（検）診や肺がん予防講座を通して、たばこの健康被害、禁煙治療等について啓発していく。

7 歯・口腔の健康

(1) 幼年期および学齢期のむし歯のない者の増加

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
3 歳児の虫歯保有率の減少	25.8%	13.4%	13.1%	9.7%	20.0%	A

(資料：小松市 3 歳児健康診査結果)



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- 計画策定時から減少し続けており、中間評価の時点で最終目標を達成している。
乳幼児期からの保護者の歯科保健に対する意識の高まりや、こども医療費の自己負担額が廃止され、歯科受診やフッ化物歯面塗布が受けやすくなったことも影響していると考えられる。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- コロナ禍でも 3 歳児健康診査歯科受診率は年々増加しており、感染症への不安による受診の差し控えは少なかった。健診で歯科講話を控えていた時期もあるが、保健師の個別相談では歯科指導を行っており、新型コロナウイルス感染症の影響は少なかったのではないかと考える。

【今後の課題】

- ・さらなる虫歯保有率の減少のために、食習慣の改善やかかりつけ歯科医がある割合を増加させる必要がある。

【今後の方向性】

- ・今後も歯・口腔清掃や虫歯になりにくい食習慣について健診や教室等で普及・啓発を行う。
- ・歯っぴい子育て支援事業などを通して歯と口の健康に関する正しい知識を普及啓発していく。

(2) 歯・口腔衛生に気をつけている者の割合の増加

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
小松市妊婦歯科健康診査 受診率向上	33.8%	33.1%	37.9%	41.2%	40.0%	B
小松市成人歯科口腔健康診査 受診率向上	7.3%	11.4%	10.9%	8.8%	12.0%※	C

(資料：小松市妊婦歯科健康診査・成人歯科口腔健康診査結果)



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- ・妊婦歯科健診は、中間評価以降、徐々に向上し、最終目標を達成することができた。
- ・成人歯科健診は、H27 年度に対象年齢を拡大し向上したが、その後少しずつ減少している。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- ・妊婦歯科健診は、R1 年度以降増減があるものの、直近値は最終目標を達成しており、感染症への不安による受診の差し控えは少なかったと考えられる。
- ・成人歯科健診は、コロナ禍の受診率は大幅に減少し、受診控えがあったのではないかと考えられる。

【今後の課題】

- ・妊婦歯科健診の受診率の維持・向上に向けた取り組みをすすめる必要がある。
- ・成人歯科健診では、特に働き世代の受診率が低い傾向にある。

【今後の方向性】

- ・母子手帳交付時のほか、母子手帳アプリ（こまつすこやかアプリ）などのツールを通して周知していく。

- ・成人歯科健診は、働き世代が受診しやすいような取り組みの検討が必要。
- また、全世代にむけても口の健康づくりの重要性について、さらに普及啓発していく必要がある。

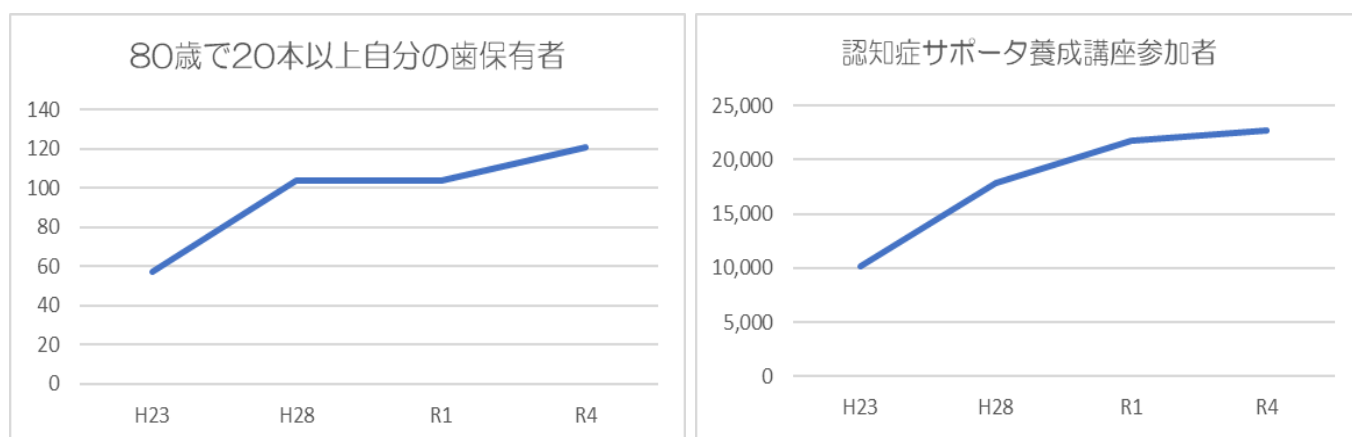
8 高齢者の健康

(1) 要介護等状態につながるリスクの早期発見・早期対応

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
80歳で20本以上自分の歯を保っている高齢者の増加 (8020表彰者数)	57人	104人	104人	121人	135人※	C
認知症サポーター養成講座の 参加者の増加(延人数)	10,100人	17,816人	21,780人	22,646人	25,000人※	B

※第5期介護保険事業計画の改定に伴い、目標項目「運動などの生活機能が低下してきた人対象の事業参加者の増加(延人数)」を削除。また、上記項目の中間目標値(H29)は第6期介護保険事業計画の目標値に修正し、最終目標値(R4)は第7期介護保険事業計画の目標値(最終年度のR2年度時点)に修正。

(資料：小松市長寿介護課資料)



【最終評価値(R1年度)までの考察】

- ・8020表彰者数は中間評価後の伸びはないが、策定時と比較すると大きく増加しており、口の健康への関心を持つ人が増加していると考えられる。
- ・認知症サポーター数は策定時より順調に増加しており、企業や学校等の団体の認知症への関心がみられている。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- ・8020表彰者数は増加しており、現時点でコロナの影響は見られていない。
- ・認知症サポーター養成講座を対面で開催することができなかったため、サポーター数に大きな伸びが見られなかった。

【今後の課題】

- ・健康寿命の延伸や8020表彰者の増加等の背景がある中、「かみにくい」という主訴が70歳以降で大きく増加することや、口腔機能低下症の有病率が増加すること等を踏まえると、今後は高齢期における口腔機能低下に対する対策が重要となる。
- ・認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者の数が増えることは、地域に

おける認知症への理解を深めるための大きな力となる。今後もサポーター数を増やし、認知症の人が自分らしく暮らし続けることができるような施策を行うことも必要となる。

【今後の方向性】

- ・アフターコロナにおける口の健康づくりについて普及啓発が必要である。
- ・引き続き感染症対策をしつつ、講座の開催ができるように働きかけていく必要がある。

(2) 高齢者の生きがいづくりや社会参加の推進

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
老人クラブ会員数の増加	16,259 人	16,957 人	16,292 人	15,176 人	17,150 人 ※	C
シルバー人材センター会員 数の増加	887 人	1,038 人	998 人	914 人	1,100 人※	C

※上記項目の中間目標値（H29）は第 6 期介護保険事業計画の目標値に修正し、最終目標値（R4）は第 7 期介護保険事業計画の目標値（最終年度の R2 年度時点）に修正。

（資料：小松市長寿介護課資料）



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- ・中間評価以降、高齢者人口は増加したものの、老人クラブ及びするシルバー人材センター会員数は減少傾向となった。
- ・しかし介護認定率も減少傾向にあり、高齢者の活動が雇用も含め多様化していると考えられる。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- ・高齢者雇用の促進に加え、感染症の影響により地域活動が自粛されたことが会員数の減少に影響があったと推測される。

【今後の課題】

- ・人口減少に伴い、地域包括ケアシステムを支える互助等の地域人材不足も懸念されるため、高齢者の生きがいづくりや社会参加活動が課題解決の一助となるような取り組みの検討が必要。

【今後の方向性】

- ・高齢者の生きがいづくりや社会参加活動を引き続き推進するとともに、それらが個への支援だけでは

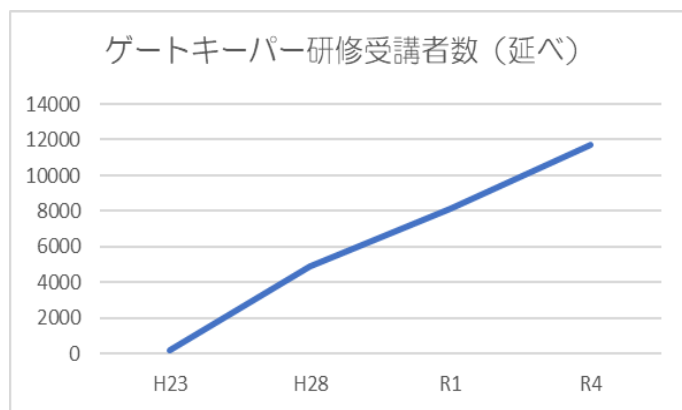
なく地域の力・強みとなるような仕組みとし、持続可能な地域保活ケアシステムの構築を目指していく。

9 こころの健康

こころの健康づくりについて関心をもつ人を増やす

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
ゲートキーパー研修受講者数 (延人数)の累計増加	166人	4,934人	8,160人	11,740人	11,000人 ※	B

(資料：小松市いきいき健康課資料)



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- ・平成 25 年度より市内全中学校 2 年生を対象としたゲートキーパー研修（いのちの大切さを学ぶ講演会）を実施したことにより、年度毎の受講者が増加した。
- ・教員向けのゲートキーパー研修を行い、命の大切さを学ぶ講演会のポイントや生徒達に伝えたいこと等について伝えることができた。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- ・いのちの大切さを学ぶ講演会を各学校に出向き行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の流行後、各学校に DVD を配布し視聴してもらう方法とした。
- ・コロナ禍で経済的問題や孤立等の問題が顕在化している。近年は、特に女性や若者の自殺者が増加しており、今後、より強化した取組が必要である。

【今後の課題】

- ・自殺の背景には、精神疾患の有無だけでなく、過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤独・孤立などの様々な社会的要因があるため、こころの健康づくりについては多機関での支援が必要である。

【今後の方向性】

- ・小松市の自殺者数は減少傾向にあるが、全国的には増加傾向にある。悩みを抱えた時に必要な相談先に相談できるよう、いのちと心を支える推進プランと合わせて、多機関で取り組んでいく必要がある。
- ・相談者が相談しやすいような取組を行うだけでなく、相談者の SOS に気づけるよう研修等を行っていく必要がある。

10 健康を支え、守るための社会環境の維持・整備

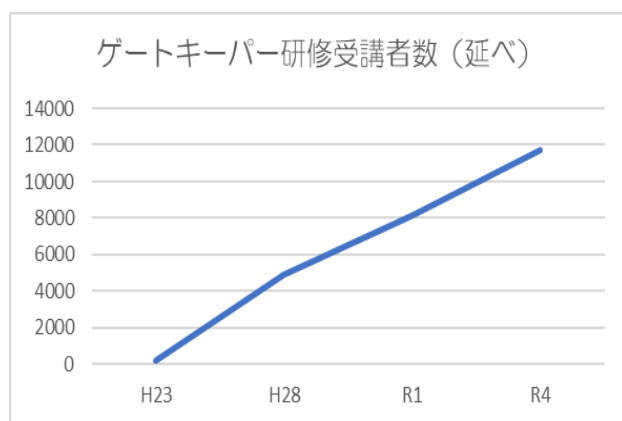
(1) 安心・安全な地域づくりの推進

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
ゲートキーパー研修受講者数 (延人数)の累計増加	166人	4,934人	8,160人	11,740人	11,000人※	B

(資料：小松市いきいき健康課資料)

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
わがまち防犯隊として活動をする人の維持	3,222人	3,393人	3,347人	2,962人	維持	B

(資料：小松市市民協働課資料)



(2) 地域のつながりの強化

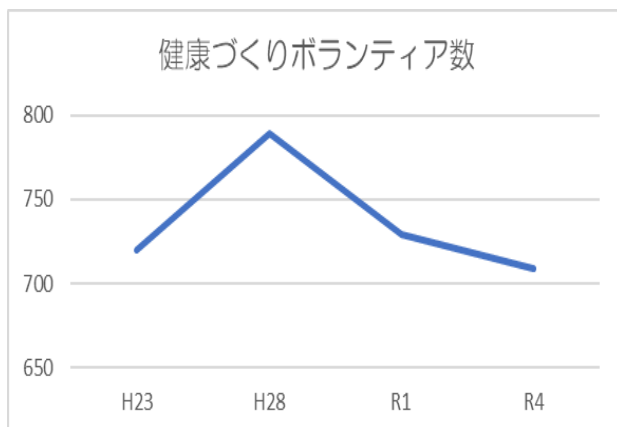
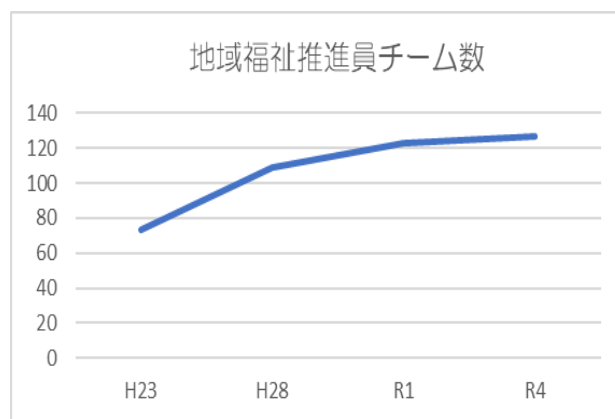
目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
いきいきサロンの開催町数の増加	198町	202町	202町	195町	213町※	B
認知症サポーター(※1)数の増加	9,762人	17,816人	21,780人	22,646人	25,000人※	B
地域福祉推進員チーム数の増加	73チーム	109チーム	123チーム	127チーム	118チーム※	A

※第5期介護保険事業計画の改定に伴い、H26より目標項目「65歳以上で近所とのつながりがあると考えている人の割合」を「地域福祉推進員チーム数の増加」に変更。また、上記項目の中間目標値(H29)は第6期介護保険事業計画の目標値に修正し、最終目標値(R4)は第7期介護保険事業計画の目標値(最終年度のR2年度時点)に修正。

(資料：小松市長寿介護課資料)

目標項目	策定時 (H23)	中間評価値 (H28)	最終評価値 (R1)	直近値 (R4)	最終目標値 (R5)	目標達成 状況
健康づくりボランティアの増加 (けんこう推進委員、食生活改善推進員、健脚推進ボランティア)	720人	789人	729人	709人	910人	B
ボランティア活動をする人の維持 (小松市ボランティア連絡協議会所属グループの会員数)	4,827人	4,804人	4,783人	4,424人	5,000人	D

(資料：小松市いきいき健康課・小松市長寿介護課・小松市社会福祉協議会資料)



【最終評価値（R1 年度）までの考察】

- サロンの開催町数やボランティア数については、最終目標値には達していないものもあるが増加傾向にある。
- ボランティア活動をする人の維持については、活動費の助成をはじめ、研修会の開催、財団などが実施する各種助成金の情報提供などを行っているものの、構成員の高齢化と各グループの人数が減少化傾向にある。
- わがまち防犯隊の活動については、前期高齢者の人口の減少により、活動する人も減少している。

【新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた考察】

- 認知症サポーター養成講座は、対面で開催することができなかったため、サポーター数に大きな伸びが見られなかった
- 新型コロナウイルス感染症のまん延により外出制限や人との交流を控えた方が多かった。そのため、地域づくりや地域のつながりに関わる活動に関わる人は減ったと考えられる。
- これまで対人関係を伴っての活動や会議を行ってきたが、研修会や会議はズームに切り替え、対人関係を伴う活動等は中止となる傾向になった。

【今後の課題】

- サロンなどについてはお世話役の高齢化や後継者不足により、継続が困難な活動も出てきている。
- 新型コロナウイルス感染症のまん延により人との関わりが減少している。地域のつながりを強化していくことが必要である。

- コロナ禍により、人間関係が希薄となり、所属グループ数や会員数が減少している。また、活動の場も減少している。

【今後の方向性】

- 各サロンの課題を把握し、持続可能な運営の仕組みの再構築と参加者の増加につながる支援を実施していく。
- 引き続き感染症対策をしつつ、講座の開催や地域活動を維持・活性化できるように働きかけていく必要がある。
- 今後は、新型コロナウイルス感染症に留意しつつ、地域活動を維持・活性化できるように働きかけていく必要がある。
- 今後、ボランティア活動の啓発を図り、人間関係を高め合い、多くのグループを育てていくことが重要。また、活動の分野を福祉活動だけではなく、環境や防災等にも広げていく必要がある。